

令和6年度 新豊崎中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和6年度 新豊崎中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	93	62	62	1.7	7.8
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	93	72.3	60.0	56.0	60.2	67.9	2.5	2.3	12.6	2.0	3.2
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2 年	学校	100	78.4	54.2	53.2	53.3	63.8	5.4	3.4	7.4	5.1	4.3
	大阪市	—	66.1	51.4	51.4	47.0	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	95	62.4	55.5	46.7	57.9	65.4	4.2	3.8	4.5	2.4	2.3
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施
※
※
※
※

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	93	125.0	124.2	169.5	116.2
	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	100	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	29.78	27.42	37.60	52.59	79.81	8.10	191.44	17.66	39.00
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76	8.08	194.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	24.40	22.84	41.34	48.79	52.71	8.97	162.69	12.17	47.39
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98	9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67	8.96	166.32	12.40	47.37

令和6年度 新豊崎中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査

<国語>

(成果)

平均正答率が全国平均を上回った。また、全ての領域においても全国平均を上回ることができ、昨年度以上の結果となった。

(課題)

記述式の問題において正答率が全国平均を下回っているため、話し合い活動をより充実させるとともに、自分の考えをまとめる取り組みを進めていく必要がある。

<数学>

(成果)

平均正答率が全国平均を大きく上回った。また、全ての領域・問題形式においても全国平均を上回ることができ、昨年以上の結果となった。

(課題)

確率の問題において対全国比が他の問題よりも低いため、家庭学習の確立により基礎・基本の定着を進めていく必要がある。

<今後に向けて>

生徒質問紙の回答結果より、家庭学習の時間が30分未満の生徒が多くいるため、学習者用端末を活用することで主体的に学習に取り組む態度の育成を図っていく。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

(成果)

大阪府平均と比較して、国語は+7.1、社会は+9.6、数学は+6.9、理科は+7.9、英語は+14.3ポイントで、全教科で大阪府平均を大きく上回ることができた。

(課題)

同一集団における対府比が昨年度よりも下がっている教科があることから、家庭学習等による既習事項の定着が必要である。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

(成果)

男女とも握力・上体起こし・反復横とび・20mシャトルランで全国平均を上回ることができた。また、女子は体力合計点でも全国平均を上回った。

(課題)

男女とも長座体前屈・ハンドボール投げは昨年同様、全国平均を上回ることができなかった。

○大阪市英語能力調査(GTEC)

(成果)

全ての領域で大阪市平均を大きく上回ることができた。

(課題)

より一層高いレベルで英語力を身につけることができるよう、教科指導を向上させる必要がある。

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)

(成果)

多くの教科で大阪府・大阪市平均を上回ることができた。特に、2年生の国語・数学・英語の対府比は昨年度より向上した。

(課題)

3年生のチャレンジテストで対府比が下がる傾向があるため、家庭学習などによる定着を今後も継続していく。